

# 森のおくりもの8月



## ツバメ (ツバメ科)



一ヶ月ほど前、観察センター脇の電線にツバメの雛たちが7,8羽とまっていました。親鳥は雛たちと森との間を何回も往復しながらせっせと餌を与えており、雛たちは飛んでくる親鳥に向けて、我先に！と必死のアピール。よく観察してみると、雛たちもそれぞれ性格が違うようで、ひたすら親鳥が自分のところに来るのを待っている子もいれば、自ら親鳥のところへ飛んでいき、空中で餌を先取りしている積極的な子もいるなど、見ていて飽きません。しかしながら、無事に生き残ることができる個体はほんのわずかということですので、何とも厳しい世界です。

7月も中旬になると、電線に並ぶヒナたちの姿は無くなり、センター周辺を優雅に飛び回る何羽ものツバメを目にするようになりました。このまま元気に育ってくれたらいいなあと保護者のような気持ちで見守っています。

【写真・文 近藤晋也】

## 『ブラジルで蝶が羽ばたくとテキサスで竜巻が起こる』

今年の梅雨は長雨が印象的でしたが、その合間のある日、鮮やかなオレンジ色をしたタマゴタケというキノコがたくさん生えている光景に出会いました。例年よりも多く、あちらこちらで一斉に出現していたので驚きました。同じ時期に他の公園の雑木林でも大量出現していたので、束の間の晴天を予知し、生える日を申し合わせたように思えて不思議でした。キノコや変形菌などの子実体は、雨に当たると傷んでしまうし、胞子を遠くに飛ばすためには雨天を避けて出現した方がいいことから、天気予報ができるのかもしれませんが。

天気予報といえば、最近の予報は頻繁に情報が更新されて当日でも変わるし、週間天気はあてにできない気がします。天気予報が長期になるほど予測が困難になる理由の一つに気象学者のローレンツが発表した「バタフライ効果」というものがあると知りました。初期条件のごくわずかなズレが、後の結果に大きな差を生み出すという気象学の概念を「蝶が羽ばたくだけで遠くの気象に変化が起きる」と例え、『ブラジルで1匹の蝶が羽ばたくとテキサスで竜巻が起こるか?』と題して講演を行ったそうです。“蝶の羽ばたき”のようなほんの些細なことが様々な要因を引き起こし、段々と大きな現象へと変化するということの理論によると、気象の予測は短期間ならばある程度の精度で予測可能でも、観測誤差をなくすことができない限り、長期予測は困難になるということです。

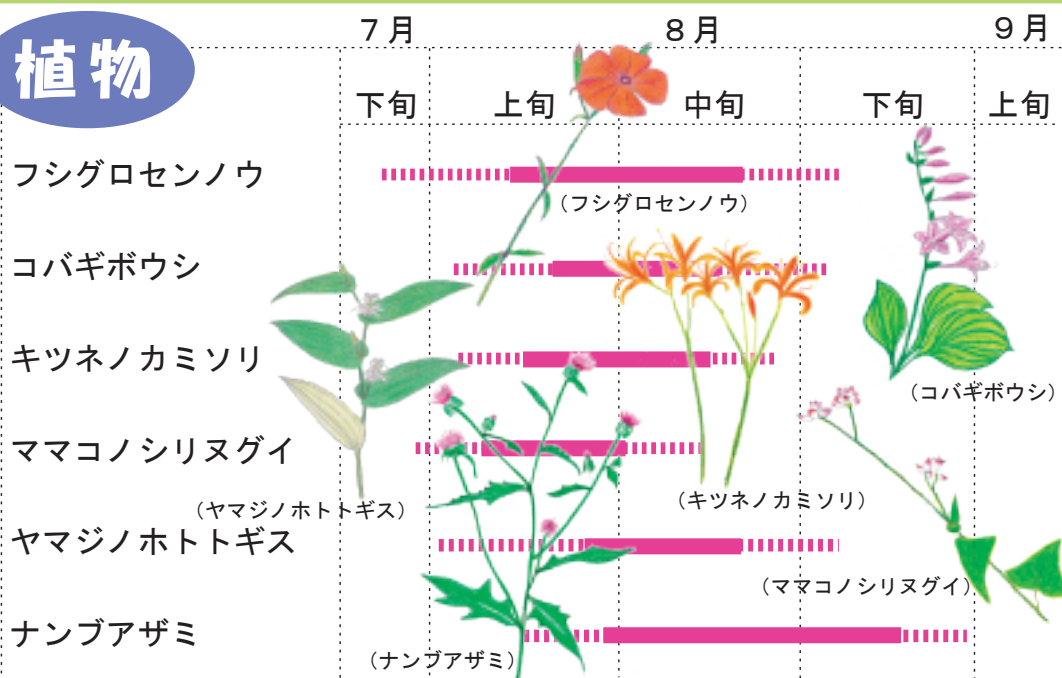
最近では本来の由来からは離れて「日常のごく小さな出来事が未来に大きな影響を与える」ということわざ的な使われ方も多く、私もそう思っていました。映画やテレビドラマなどでも「ほんの些細なことが様々な要因を引き起こし、後に非常に大きな事象の引き金に繋がる」という要素で使われています。

「未来は正確に予測することは誰にも不可能で、どんな未来が訪れるかはわからない」と捉え、いつかとてもいいことが起こり、幸せが舞い込んでくるかもしれないと希望を持っていようと思いました。【レンジャー：新田隆一】



# 8月の生物ごよみ

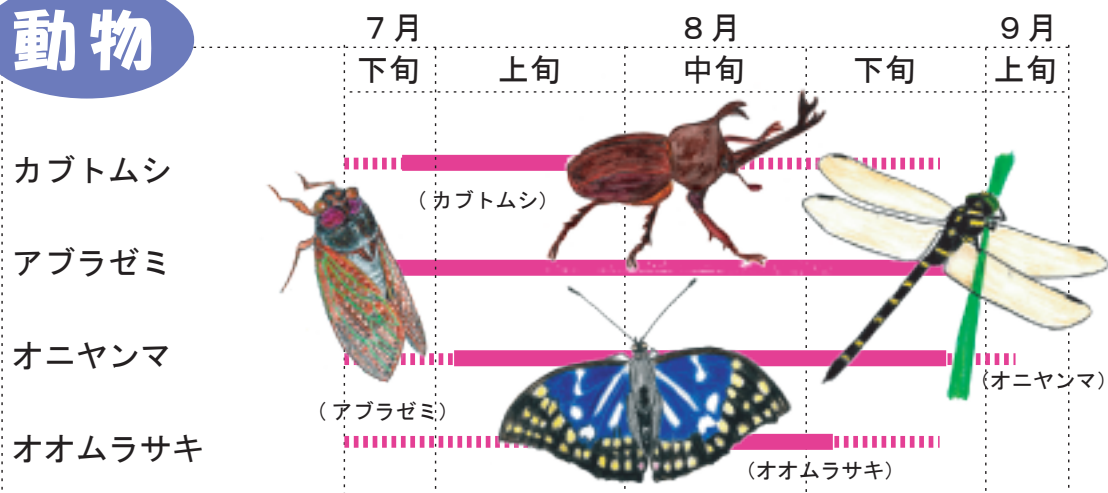
## 植物



例年ですと、観察の森ではセミたちが大合唱を始めています。今年はニイゼミ、ヒグラシは6月後半から鳴きはじめたものの、長雨が続けているせいか、セミの鳴き声もあまり聞かれません。

センターの展示室で新しくシュレーゲルアオガエルの生体展示をはじめました。120cm水槽に綺麗にレイアウトして展示しています。まだ1cmぐらいの子ガエルですが元気に育ってくれればと願うばかりです。

## 動物



【レンジャー：齋 正宏】

# 森の「おとしもの」



「いきものすごい!!」

「あれ？豆のさや？」ネムノキの先端についたこの生き物、実はキタキチョウの蛹です。ちょっと見ではまるで植物の一部に見えます。野鳥など捕食者の目を逃れるため擬態しているのでしょうか？（写真①）

下の4枚の画像は全て一本の樹で写しました。昆虫の姿わかりますか？



写真①



写真②



写真③



写真④



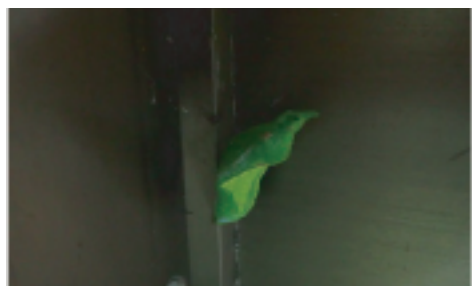
写真⑤

写真③は「スミナガシ」という蝶の終齢幼虫、⑤は数時間後の蛹になった姿です。②と④は枯れた葉でどちらもスミナガシの食べた痕のようです。まるで分身の術みたい。

「いきものってすごい!…」

思わず声が出てしまいました。これって偶然でしょうか？それとも…

【レンジャー：木田秀幸】



写真⑥ ところがセンター入り口のアゲハの蛹。暗がりに緑色が目立ちすぎて心配。茶色に変身しないとダメじゃない!?

# 森は糸



# 森は布

森は様々な生き物が互いにつながって森として生きているんですね (\*\_\*)

樹木の葉に何か丸いものがありました。テントウムシの仲間かな、カメノコハムシの仲間かも知れないな。とすればイチモンジカメノコハムシかな、黒っぽいようにも見えるのでコガタカメノコハムシのようにも見えるな。さて、近づいてよく見てみるか、えっ、何だこれは！虫じゃないぞ！ (^\_^)



ナナホシテントウ。ナミテントウと違って赤地に黒点です。アブラムシを食べる肉食です。

イチモンジカメノコハムシ。周縁部が透明で中央が金色、ムラサキシキブ等の葉を食べます

コガタカメノコハムシ。背面の中央が凸凹。ボタンヅル等の葉を食べます。

## ハナイカダ

ハナイカダ科落葉低木

別名：嫁の涙、ママッコ

花期：4月から5月、雌雄異株

虫に見えたのは何とこの植物の実でした！しかも葉の中央の葉脈上に！花の時期には、雄花、雌花が見られたはずですが、実のついている部分の葉脈を拡大すると写真①のように太さが違ってきますよ。何でだろう？気になりますね。??? (^\_^)

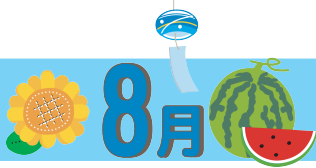


写真①



写真②

写真②のように、実（花）をつける柄と葉脈とが合体したとは考えられないでしょうか。実（花）は茎（柄）に付くものなので、実までの葉脈がそれより先の葉脈より太いのも合点がいくように思います (^\_^)【レンジャー：菅原幸彦】



# 8月のイベント&お知らせ

## ◆『親子で虫さがし』 8月15日(土) 10:00～11:30

・虫とりをしながら夏の森を探検します。

【定員】10名(小学生とその保護者) 【持ち物】雨具・虫よけ・飲み物など

【料金】無料 【申込み】8月6日(木)午前9時から電話で受付〔先着順〕

## ◆『「わくわく夜の森たんけん」』

・夜の自然観察の森を探検します。8月15日(土)19:00～20:30

【定員】20名(小学生以上) 【料金】無料

【持ち物】懐中電灯、虫よけ、雨具(カッパ)、飲み物など

【申込み】8月7日(金)9:00から電話で〔先着順〕

## ◆『虫のいどころ』 8月22日(土) 10:00～11:30

・昆虫の専門家と共に、真夏の自然観察の森で虫のいどころを探ります。

【定員】20名(どなたでも) 【料金】無料

【持ち物】雨具(カッパ)・観察用具・帽子・虫よけ・飲み物など

【申込み】8月8日(火)午前9時から電話で受付〔先着順〕

◆新型コロナウイルスの感染拡大や天候の急変等でイベント中止・短縮場合があります。

毎週  
日曜は

### 『ガイドウォーク』の日!

開催予定: 2日, 9日, 16日, 23日, 30日

開催時間: 10:00～11:30, 13:30～15:00

今月のテーマは 『夏の森の楽しみ』

### 7月の休館日

3日(月)、11日(火)、  
17日(月)、24日(月)、  
31日(月)

※月曜が祝日の場合火曜日が休み

#### 宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
  - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
  - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車  
(※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘經由山台南ニュータウン行」)  
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

#### お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。  
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

#### ♪森へおいでください♪



自然観察の森の最新情報、  
「森のおくりもの」バックナンバーは  
Webで!

2020年8月号(毎月1回5日発行)

発行:(公財)仙台市公園緑地協会

編集:仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

「社のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>